

令和七年度「家庭の日」作文コンクール入賞作品

最優秀賞

日曜日のシェフ

鳥取市立福部未来学園 七年 本 田 衣理奈

「毎週金曜日に、家族のために夕食を作りたい。」

当時六年生だった私は、母にこう言いました。なぜこのようなことを言ったのかというと、母と父が、仕事や家事で大変そうだったからです。特に、母は、ほとんど休みなく夜遅くまで働いています。父が休みの日は、父が夕食を作ってくれますが、それ以外は、母が忙しい朝の合間に、夕食を作り置きしています。そんな、父と母の姿を見て、少しでも助けになりたいと思い、夕食作りを提案しました。そうして私は、金曜日のシェフとなりました。

シェフの仕事は、まず、インターネットのレシピサイトから自分が作れそうな料理を見つけることから始まります。次に材料の買い

出しを三日前までに母に頼みます。そして、当日、レシピサイトを見ながら夕食を作ります。

苦労していることは、どの順番で材料を切ったり、作業をしたら効率がいいか考えて実行することです。順番を間違えると洗い物が増えたりします。また、片づけをしながら料理を作っていくことはとても難しいです。作ることに夢中になってしまい、作り終えた時に洗い物が山ほどあった時は、がっかりします。でも、家族が、『おいしい』と言ってくれると、そんな大変さもうれしさに変わってきます。

一番最初に作った、野菜の豚肉巻きは、家族みんなのお気に入りになり、何度もリクエストされました。六年生の夏休みには、父に魚のさばき方を教わりました。初めて作ったヒラメのカルパッチョも大好評でした。

数ヶ月が経ち、夕食作りに慣れてメニューのレパートリーが増えると母からミッションが与えられるようになりました。例えば、『節約レシピでお願いします。』とか、『じゃがいもがたくさんあるから、それを使った料理で。』『最近お父さん疲れがみだから、スタミナが

つく料理で。』などのミッションです。ミッションが与えられると、難しくなりますが、できたときの達成感も増して、とても楽しいです。父や母は、毎日家にある材料、家計、家族の好みや健康を考えて夕食を作っていて、すごいと改めて思いました。

しかし、中学生になり、部活でヘトヘトな私は、金曜日のシェフができなくなっていました。夕食を作れる日がだんだん少なくなってやる気も少しなくなってきたある日、母が、

「家族の生活スタイルが変われば、その都度、家族の役割も進化させていったらいいんだよ。」

と言いました。私は、はっとしました。金曜日にこだわらず、自分ができるときにすればいいんだと思えるようになりました。そうして私は、日曜日のシェフになりました。

日曜日のシェフになっても、家族からの『おいしい』は変わらず、私の力となっています。これからも、私は私のペースで日曜日のシェフをがんばりたいです。そして家族の一員としての役割を果たしていきたいです。

